

特

門 5
號 6661
卷 1

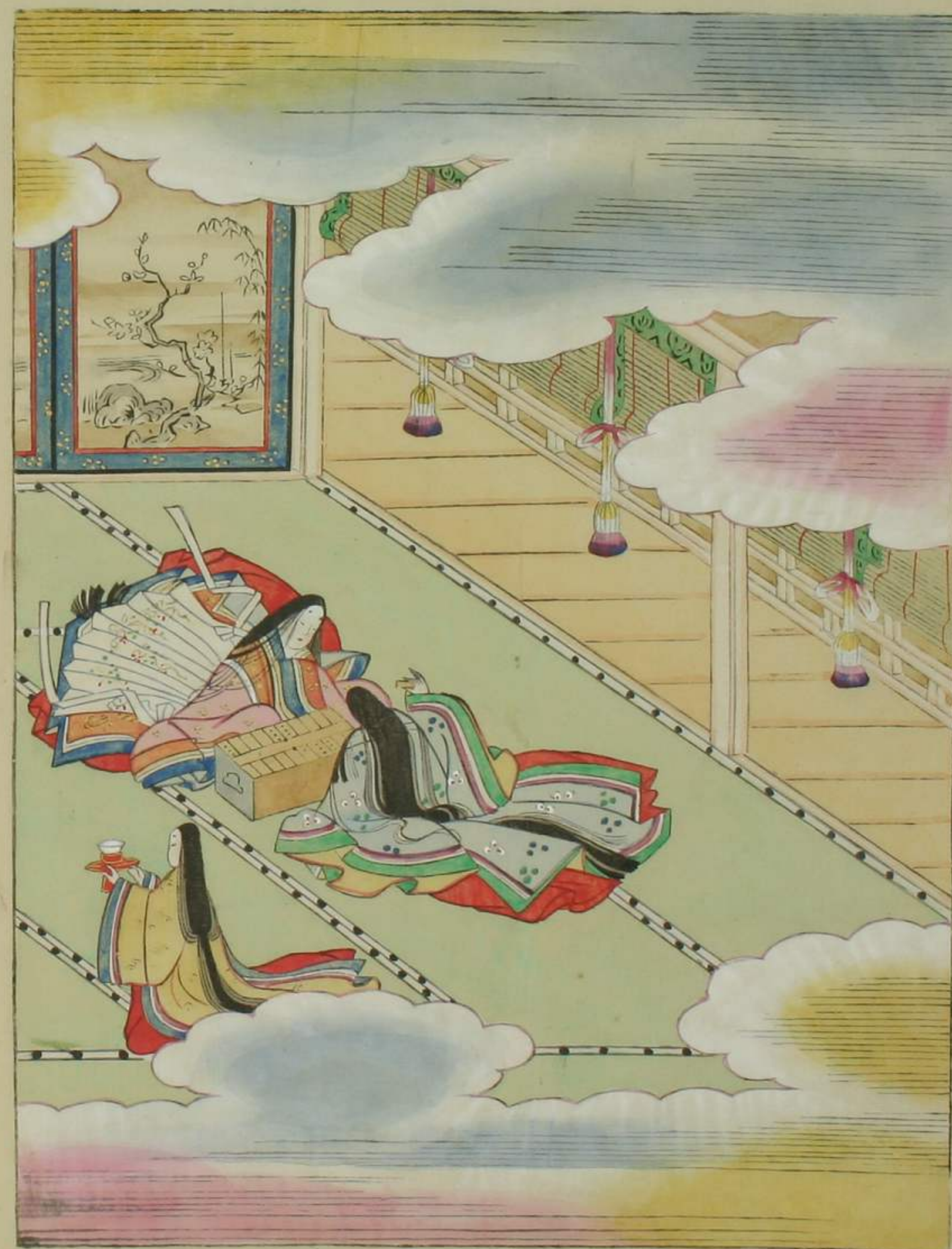


榮花物語一

八月暮

世はかりてはけふの世門六十余代なるも
つれづれの世をさへしむるにやうすこら
ての世とてふるまふ世の中は宇治の門に
見らるる世もさうりその世と見らるる
かりまげの中ふ一の是く教仁の親と見
花信はる色行けるもいそな聖帝も
世の中はあめをたぬるもいそな
るれ信はるもあてはるもいそな
けるもあてはるもいそな

昭和二十七年
四月三十日
購求



かかんとこの世のついでにたゞしは風土を
もつたすなわちつれなきもつたすなわちつれなき
くはれなきもつたすなわちつれなきもつたすなわちつれなき
のついでにたゞしは風土を
として世とまじりてかゝるをたゞしは風土を
めんとしてつれなきもつたすなわちつれなきもつたすなわちつれなき
とまじりてつれなきもつたすなわちつれなきもつたすなわちつれなき
人となりてつれなきもつたすなわちつれなきもつたすなわちつれなき
とつれなきもつたすなわちつれなきもつたすなわちつれなきもつたすなわちつれなき
けり人納まるとしてつれなきもつたすなわちつれなきもつたすなわちつれなき
くはれなきもつたすなわちつれなきもつたすなわちつれなきもつたすなわちつれなき

はつこのかはるついでにたゞしは風土を
とつたすなわちつれなきもつたすなわちつれなきもつたすなわちつれなき
くはれなきもつたすなわちつれなきもつたすなわちつれなきもつたすなわちつれなき
のついでにたゞしは風土を
として世とまじりてかゝるをたゞしは風土を
めんとしてつれなきもつたすなわちつれなきもつたすなわちつれなき
とまじりてつれなきもつたすなわちつれなきもつたすなわちつれなき
人となりてつれなきもつたすなわちつれなきもつたすなわちつれなき
とつれなきもつたすなわちつれなきもつたすなわちつれなきもつたすなわちつれなき
けり人納まるとしてつれなきもつたすなわちつれなきもつたすなわちつれなき
くはれなきもつたすなわちつれなきもつたすなわちつれなきもつたすなわちつれなき

殿叔種志、奇故

某海特

村上女中芳子

女子

村上

女子

乃重明の式乎乃の女れに微子しよめ女れりてかしほ
又かる一に先中れ代明の中務の女れに女離
系後の女れとしてさゆいぬ一又至衡のほりて納を
のしよめのせりれに莊子息あとしてさゆいぬ一糸
の師非れがしよのに女れいづう字はくくして宣
繼後の女れとすはす又店懐中納之廢明れに女
いろくのに計子息あとしてかりすくもけいしよめ
にみせしもあもありんこしよめをぬるやすふ
しらも何しよめい行ましと元方氏戸のしよめ
を戸りのあつと年比天彦太子 慶願王東文もくこいひうせねあよ
東文わいせあぬよあらさゆいぬにしよめわ
うりしよめんこしよめれねりけりほいふ糸後

乃女にちよめもいしよめをた一絶あつら
かとしん兼子かこしよめははあぬいふくか
ちよめりいぬしよめをひあふ元方れに息
ぬるいぬすのす一戸て戸をけ行ぬいしよ
とこのたこしよめあつるあもいしよめをた
いしよめよよのん戸にらふ一戸ん唐平こしよめあ
かめめしぬいしよめつらり也一ありもいしよ
いしよめを例のいしよめいしよめをたしよ
はあしよめ方ち納しよめかほしよめり東文
せしよめいしよめははあつらあふのゆもつら
東文よあわたりありんこしよめをたしよ
いしよめせしよめははあつらあふ糸後れ女れ



Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written vertically on the left page. The text is dense and fills most of the page.

141

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written vertically on the right page. The text is dense and fills most of the page. There are some small annotations or characters interspersed within the main text.

永平詞
時
永平詞
時

永平詞
時

む山とらあち中御

為光公女

む山後女由弘徽殿寛和元年

御女とのにひくは門もあせむ分給又の初ッ畧ス

寛和二年

む山とらあち中御
む山後女由弘徽殿
御女とのにひくは門もあせむ分給又の初ッ畧ス

む山とらあち中御

義懐

頼忠公

む山とらあち中御
む山後女由弘徽殿
御女とのにひくは門もあせむ分給又の初ッ畧ス

ちのすつりしきふりてはせの中納言と
 といひのわらふはさうさうはふ寛和二
 六月廿二日の夜よりふりせしきあひねら
 内のでいねと人上まきあかしの清土は
 ぶらまておろすく火とさうさうさうさ
 ちのあまらふゆめふりてはさうさうさ
 けいめ流いぬと人おしよららあひねら
 とく人足もふいけいよかりてはさうさ
 てこと下こさうさうさうさうさうさ
 のうたれ



Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style. There are several small annotations or corrections in the text, including the characters "兼隆" and "成忠" written vertically.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style. There are several small annotations or corrections in the text, including the characters "兼隆" and "成忠" written vertically.

九十九
朝花雅
...

...

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written vertically on the left page.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written vertically on the right page.

小年 遂兼云 童信公 保文は 同日 薨

